

タイトル:平成 23(2011)年度 教育セミナー

日時:平成 23 年 9 月 17 日(土)~20 日(火)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「ヨルダンの都市発展——アンマンを中心として」

臼杵 悠(一橋大学修士課程)

今回のセミナーは去年も参加させていただいており、2 度目の参加であった。前回も書いたが、専攻する分野のせいか大学では周りに中東・イスラームを研究する人はおろか、興味を持つ人も少ない。そのため、中東・イスラームに関する話をできる人が限られてくる。そうすると、どうしても視野が狭くなりがちになる。しかし、大学にいただけでは中東・イスラームに興味がある、あるいは研究している人を探すことさえ難しかった。そのような点で、このセミナーは私にとっては願ってもいない機会だった。さらに、前回は 4 日間通して全て参加できなかったということも、今回の参加を決めた理由のひとつだった。

このような研究環境の中で中東・イスラームという近い分野を専攻する院生や先生方に新たに出会える機会は、実際に参加してみてやはり貴重なものであると感じた。

その中でも、特に今回私が参加して良かったと思った点が 2 点ある。

1 点目は、前回とはまた違う新たな人々に会えたことである。受講生が違くと雰囲気も異なっていた。中東・イスラームを研究する修士課程の学生に会う機会が去年の受講以来私にはほとんどなかったため、自分が知らない分野の研究をする人に会えて興味が広がり、かなり良い機会であったと考えている。さらに、修士課程の学生が中心に集まっていたが、なぜこの分野を専攻しているのか、きっかけや研究の悩み等を聞いたことも励みになった。

2 点目は、この 4 日間を通し様々な分野の中東を良く知る先生方の話を聞き、かつ指導やアドバイスをいただける場であったことである。このことは、私にとっては自分がどれだけ偏った見方しかできていなか、予想以上に視野が狭くなっているかを痛感する機会になった。このことで、多角的な見方を意識する必要性を強く感じた。また、自分の研究は全体の研究についてどのように位置づけられるか、どのように見られているかを考えることもできた。さらに、自分に足りないところを指摘されることで今後の方向性を改めて考える機会にもなった。

今後さらに、より様々な分野の先生方や学生が参加し、議論をし合える場であればよいと考えている。

終わりに、今回の先生方含めセミナー関係者の方々、特に事務局の千葉様には最後の最後までご迷惑をおかけし、去年以上にお世話になりました。大変ありがとうございました。